

高気温を観測した日のいくつかは1940年代にまでさかのぼります。当時の天気図は記入方法が現在のものとは若干異なっています。衛星などの資料もありませんので不確実性はあるものの前線等を再検討するとこれらの天気図からも同様な共通点が表れたのは驚きでした。

雨雲の動きなどはレーダーなどから手に取るようにわかり、その他の豊富な資料で解説できます。しかし暑い日はもちろん晴れているので、衛星からの情報も少なく、下層風、各層の温位分布等が頼りでした。ま

た非静力学モデルの数値実験との整合性、高温日の事例の観測資料を検討して高温の総観パターンを示しました。

東海地方の異常高温については他の原因も考えられるかもしれませんが、数値実験では山岳波が計算されてきますが計算結果が必ずしも実際の大気を十分に再現している保証もありません。きめ細かい観測体制のもと詳細な解析が行われる必要があります。

今回の受賞を励みとして天気解説などの気象知識の普及活動などにも一層努力していく所存です。



防災科学技術研究所 研究交流棟竣工式並びに第2回成果発表会

防災科学技術研究所は災害に強い社会を目指して、自然災害に関わる調査・研究を進めています。この度、研究交流棟の竣工式とあわせ、第2回成果発表会を開催することとなりました。本会は、研究の成果を発表する場として、独立行政法人化してから2回目を迎えます。興味をお持ちの方は、是非ご参加ください。

日時：平成15年4月22日（火）

場所：防災科学技術研究所研究交流棟
（茨城県つくば市天王台3-1）

参加費：無料

定員：約300名

（4月11日または定員になり次第締め切ります）

申し込み：URL <http://www.bosai.go.jp/jindex.html> から受付けています。

プログラム：詳細は上記ホームページ参照

11：00～12：00 施設見学会

13：00～13：40 竣工式

13：40～14：25 記念講演

「阪神・淡路大震災の体験と防災科学への大期待」

山根一眞 ノンフィクション作家

14：30～17：20 成果発表会

講演

「都市を襲う水災害～被害軽減のための身近な災害の理解と行動～」

中根和郎

他3件

ポスター発表

「水害に対する住民の防災意識」

福園輝旗

「海面は上昇しているか

～気候変動による平均海面と波浪の上昇傾向～」

岩崎伸一・佐々木 亘

「広島豪雨は再び起こるか

～1999年広島豪雨の解析結果～」

三隅良平

「山の雪は減っているか

～我が国の山地積雪の経年変動～」

清水増治郎

「気候に影響する風送ダスト

～中国タクラマカン沙漠における観測～」

阿部 修
他10件

17：20～19：00 懇親会

問い合わせ先：防災科学技術研究所企画部企画課

Tel：029-863-7787, Fax：029-851-1622

E-mail：plansec@bosai.go.jp